

闘う弁護士・西村國彦のゴルフ文化産業論

23

1 実定法主義と自然法主義

奇しくも、今回の新型コロナウイルス禍をきっかけに、実定法主義(強欲資本主義)と自然法主義的な考え方の対立が鮮明になってきていた気がする。

リーマンショックを修復したかに見えたアベノミクスとトランプバブルは、「コロナ問題をきっかけに、「成果」の全てが消し飛びつづる。

イタリアやスペインなどヨーロッパ後経済崩壊し、米国とIMFの指導に従って大幅に医療費を削減した国々は、今回本当に悲惨な状況になっている。対象的に、アイスランドの賢い対応は、「先見の明」があった。

他方、米国に近いキューバは、医療政策が功を奏したのか、行き先

に困ったクルーズ船を喜んで受け入れるなど、素晴らしい対応を見せている。

また、農薬や放射能等の環境問題には、純感な世界の為政者たちが、死者数がインフルエンザに及ぶもつもないコロナウイルスの方には異常に反応している、という不思議さだ。

これらのこととは上記2つの主義、もしくは思想対立を乗り越えるヒントになると私は思う。

ルフ文化は寄与できるのか、を追及したかったのだ。

まさに世界の現状のような「人

類が向き合つたことのない未開有人の選択を迫られる」よう(註1)

事業環境において、決定的な倫理上の誤りを犯さないために、「美意識」に欠ける経営者は退場を迫ら

れるということだろう。

確かに、後出しジャンケンで違

法とされるとか退場に備する、と

いうことは、行為の時点では現行法上違法ではない、とされている。

しかし、このような時代の変化を

代なのだ。前号までに紹介した「山口意見」とおり、法令不適切の原

則にもかかわらず、後出しジャンケンで違法とされるリスクが確実

に拡大していることは確かだ。

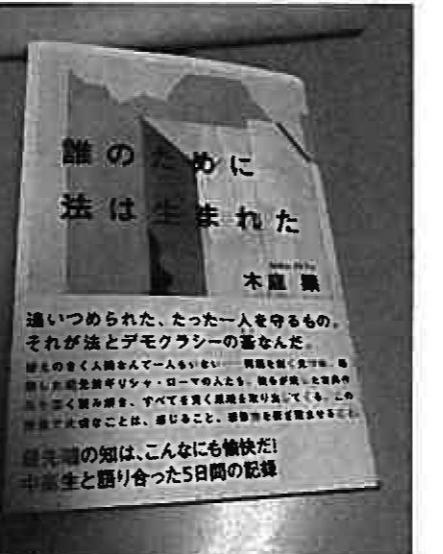
従つて、ルールの整備が後追い

でなされる世界でクオリティ高い

意思決定を継続するためには、「美

ることは、結構勇気がいることだ。

自分で考えるだけでは、結論が出ない。そのような判断をするには、世界の現状と動向をかなり知



必要がある。世界の動きを知るために、経済とか才力の動きとかを理解しないと判断ができないと、数字に弱い私としては、ずっと気になっていたのだ。

4 経済とは何か?

あわてて読み始めた本が、なぜか皆ギリシャ神話につながっていく。物事を掘り下げていくと、みなさんはギリシャ時代に、哲学者たちが議論をしていた問題にたどりついてしまうようだ。ギリシャも、リーマンショックでは真っ先に経済危機に陥り、2015年には先進国ではじめてのIMF債務不履行国となつている。その財務大臣として、IMFに対し債務帳消しを主張したヤニス・バルファキス氏がわかりやすく経済とは何かを語ってくれている(父が娘に語る経済の話 20

か皆ギリシャ神話につながっていく。物事を掘り下げていくと、みなさんはギリシャ時代に、哲学者たちが議論をしていた問題にたどりついてしまうようだ。ギリシャも、リーマンショックでは真っ先に経済危機に陥り、2015年には先進国ではじめてのIMF債務不履行国となつている。その財務大臣として、IMFに対し債務帳消しを主張したヤニス・バルファキス氏がわかりやすく経済とは何かを語ってくれている(父が娘に語る経済の話 20

ろう。もともと人類は植民地の原住民にウイルスを移す(あるいはまき散らす)ことによつて、原住民を絶滅させてきた実績がある。

その意味で、宇宙船地球号(註2)の上で、実定法主義につながる新自由主義的な政策は、宿主と言ふべき地球の環境そのものを破壊するシステムとして、採用すべきではないのだ。

実定法主義を振りかざし、「今だけ力だけ自分だけ」と評される考え方では、もうこの地球と全人類に対する説得力を失つていると判断すべき時期なのだ。

19年ダイヤモンド社)。そして、40年以上、私が解くことができなかつた難問を、ローマ法学者が中高生に映画や本を題材にして読み解く本を発見。このギリシャ神話を題材にした本「誰のために生まれた」木庭顕(2018年 朝日出版社)が大変おもしろい。

「デマやフェイクが飛び交い、ユーチューブでは、眞実と虚を織り交ぜ、テレビの世界の延長をやっているこの時期に、何が眞実であるのか、じっくり腰をすえて考えないと間違えそうだ。そう、覚悟を決めるしかないだ

みんな運命共同体だったのだ

宇宙船地球号という言葉は知っていた。牧歌的時代、カウボーイ経済では、資源は無限だった。でも地球の歴史から見ると、ほんの一瞬で資源を使い果たしかねない現代経済では、人類は宇宙船地球号に乗っていると考えるべきと、1966年、経済学者ボールディングが言った。

米国流新自由主義は、合法的なことでありさえすれ

ば何をやってもよいとして、「100年に一度」と評されたリーマンショックを乗り越えてきたかのようであった。しかし、そんなことが長く続くわけがない。コロナウイルスは、あつという間に、新自由主義のバブルを吹き飛ばしてしまった。世界中のひとたちはみんな「いつしょに水漏れする船に乗っている運命共同体」(デビッド・バーン)だったのだ。

今こそ、この間失われていた「共同性」を重視した方向に考え方を変えよう。

西村國彦(にしむら・くにひこ)
お酒は飲めないしカラオケも駄目の営業下手の弁護士。そんな男が40歳を迎える年、ゴルフを始めたことから人生も性格も激変。「ゴルフ大好き仲間を求めるオーデセイ」になって、世界を放浪。「ゴルフエンサインも書く傍ら、法的に弱いゴルフ場会員たちの権利を守るために、「新理論」を構築。ハゲタ外資にも正面から聞いを挑み、撃破。最近、ジャズの世界も覗いでいる。日本ゴルフジャーナリスト協会理事。

目次
その1 日本人が諦めていること
その2 鍋とフライパン革命の意味
その3 近未來の組織問題は世界の課題
その4 今なぜ「美意識」が必要なのか?
その5 サイエンス重視から哲学・アート重視への変更理由①
その6 サイエンス重視から哲学・アート重視への変更理由②
その7 実定法主義と自然法主義

西村國彦(にしむら・くにひこ)
お酒は飲めないしカラオケも駄目の営業下手の弁護士。そんな男が40歳を迎える年、ゴルフを始めたことから人生も性格も激変。「ゴルフ大好き仲間を求めるオーデセイ」になって、世界を放浪。「ゴルフエンサインも書く傍ら、法的に弱いゴルフ場会員たちの権利を守るために、「新理論」を構築。ハゲタ外資にも正面から聞いを挑み、撃破。最近、ジャズの世界も覗いでいる。日本ゴルフジャーナリスト協会理事。